

下関国際新聞

中学1・2・3年生

下関市総合政策部
国際課

Tel:083(231)9653

Email:sskokusa@city.shimonoseki.yamaguchi.jp

中学生米国派遣研修団8名が元気に帰関

8月5日、市内中学生派遣団員8名を姉妹都市米国ピッツバーグ市（カルフォルニア州）に派遣。5泊のホームステイを終え8月12日に帰関しました。

下関から世界へ、グローバルな人材育成に向けて！

平成12年度から始まった中学生米国派遣研修は、今年で16年目となり、下関市ではグローバルな人材育成に向け、8名の中学生を国際親善大使に任命し、姉妹都市のピッツバーグ市へ派遣しました。

●ピッツバーグへ出発

本年度の派遣団は、ホームステイをしながら市議会、警察署、州議事堂、総領事館等の視察、地元高校生との交流等を通して、本場の英語や異文化を肌で体験しました。



新下関駅で家族や先生方に見送られ、福岡空港を経て成田空港から出国！



●事前研修

6月下旬から始まった事前研修では、ピッツバーグでの交流を深めるために、現地において実施する調査の資料「知りたいプリント」を作成し、その内容を英語に翻訳することに取り組み、また、ホームステイにおける注意事項

●ピッツバーク探訪

2日目、ピッツバーグ市庁舎に集合、ロンドン市長グレイヤー市長の出迎えを受け、歓迎の挨拶を受けた後、公立ピッツバーグ高校を視察、全校生徒三千人の大きな校内、カフェテリア、スタジアム等を視察。地元高校生と交流しました。



●ピッツバーク探訪

3日目は、州都サクラメント視察。まずはカルフォルニア州の州議事堂を見学。厳重なセキュリティを通過して内部に入ると、カリフォルニア州の各郡（カウンティ）を紹介する展示ケースの前を歩いていくと、州知事の執務室（入口近くの観光客や一般の人たちが見学できるところ）にあって、タイムリングがよければ州知事と出会う可能性もあるかも？、その後、歴代州知事の、アーノルド・シュワツネガーやロナルド・レーガン等の肖像画を見ながら、州の歴史資料館を兼ねた展示物の見学を通じて、カリフォルニア州の歴史を学び、昼食は、リバーサイドのレストランでシーフードを堪能しました。その後、オーランドサクラメントの街を散策。キャンディショップ等で買い物を楽しみました。

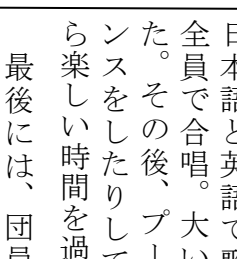


●州都サクラメント視察

その後、バスでピッツバーグへ移動。時差による睡眠不足と旅の疲れがピークの中、ホストファミリーと初めて対面し、団員はそれぞれのホームステイへと出発しました。



次にサンフランシスコの観光地として誰もが訪れるピア39へ移動してショッピング。野生のアザラシやトド？が目の前で日光浴、有名なアルカトラズ島や美しいゴールデンゲートブリッジを見ることができました。その後はゴールデンゲートブリッジの近くの観光スポットで記念撮影の後、橋を渡ってピッツバーグへ戻りました。



中、バスでサンフランシスコ視察に出発。体験型施設（エクスプラトリアム）子供と家族向けの科学博物館を体験。展示物でゲームやいろいろな遊びを通じて楽しく科学について学びました。



最初に、期間中、いろいろとお世話になったことに感謝の気持ちを込めて「上を向いて歩こう」を披露。男子はハッピーを着て、女子は全員ゆかたを着て可愛く変身、

●さよならピッツバーク

出発の朝、午前6時45分、ピッツバーグ市役所に集合。楽しかった研修もすべてを終えて、帰国するときに来れました。一緒に見送りに来てくれたホストファミリーに最後の別れの挨拶（ハグ）をしてサンフランシスコ空港へ出発しました。

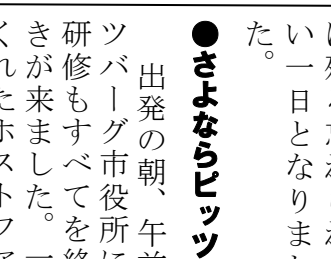


●サンフランシスコ視察

4日目は、各団員もホストファミリーとコミュニケーションする1日になりました。



研修最終日（5日目）、夕方からピッツバーグ市主催のプールパーティーに参加。市長をはじめホストファミリーの友人も集まってくれました。



姉妹都市ピッツバーグの皆さん、大変温かいおもてなしと貴重な体験を本当にありがとうございました。

テ ン ・ ボ イ ス （ 団 員 の 声 ）

●今までの自分の考え方やものの見方が本当に狭かったということが分かりました。研修でたくさんの人と出会い、貴重な体験をしたことが人生の中で特別な思い出となり、一歩前進する勇気を授けてくれたことを、身を持って証明したいと思います。（川中R.F）

●夕食に「照り焼き味」のステーキを食べたとき、すごく甘くてがっかりしました。アメリカは甘いなら甘い！とはっきりしているなと感じました。今回の研修で今しかできないことを学び挑戦し楽しめました。英語をもっと勉強したいと思いました。（川中Y.S）

●「いつまでも友達よ！ここはあなたの家だから何時でも帰ってきてね。」と言ってくれたホストファミリーの言葉がうれしかった。もっと英語ができるようになって、絶対に帰ってこようと思った。（勝山中M.O）

●今回の研修で一番感じたことは、コミュニケーションを図るために必要なのは、伝えようとする気持ちだと感じました。それは他の事全てに言えることだと思います。相手に寄り添い、どうすれば伝えられるか、相手の気持ちを理解することが大切だと感じました。（長府中M.K）

●プールパーティーでは、毎日が楽しくて、みんなと過ごした日々を思い出していると自然に涙が出ました。今回世界を感じたことを軸にして、どんなことにもチャレンジし成功できるような力をつけていきます。（垢田中T.K）

●今回の経験を通して国際交流を大切にしていこうと必要だと考えました。言語や文化は違って必ずどこかで分かり合えることはあります。一番印象に残った言葉は「Go for broke」です。何事にも挑戦するチャレンジ精神を大切にしたいと思います。（名陵中S.Y）

●ホームステイが今一番思い出に残っています。私はすぐにあきらめてしまう性格なので、とにかく結果がだめでも、無理だとあきらめずに挑戦することが大切だと思いました。英語をもっと勉強して、いつかは国際的に働けるようになりたいです。（夢が丘中A.F）

●視野を広げるということ、今回の研修の目標にしていた。考え方の違いを学んだことでその目標は達成できたと思います。これからは、自分と違う意見を理解するだけでなく、自分の中に取り入れて、様々な意見を持つよう大きく成長したいと思います。（彦島中S.K）

○第1回事前研修の日、終了後、なかなか会場を去ろうとしなかった姿を鮮明に覚えている。派遣研修中、団員が互いに助け合い、声を掛け合う姿はとても自然で、誰一人として欠けることのできない第16回研修団であった。このような貴重な機会を与えてくださった関係者皆様に心より感謝する。（引率Y.A）

○今回改めて出会いの大切さを実感させられました。交流の原点は人と人との出会いであり、団員は心に残る出会いと経験をしました。その経験を将来に向けて活かして欲しいと思います。今回研修を通じて心に残った言葉をエールとして送ります。「Challenge」「Go for broke」「Remember Pittsburgh」（団長T.A）